

平成25年度事業報告

(1) 人材育成事業

①情報通信人材研修事業 5コース開催

- Excel マクロ/VBA研修
開催日 平成25年 9月13日(金) 参加者 16名
- Excel VBAプログラミング実践
開催日 平成25年10月 8日(火) 参加者 9名
- プロジェクトマネジメント基本から問題解決まで
開催日 平成25年10月24日(水)～25日(木) 参加者 7名
- ソフトウェア品質確保の基本と実践
開催日 平成25年12月 9日(月)～10日(火) 参加者 14名
- アプリケーションテスト 基本と実践
開催日 平成25年12月18日(水)～19日(木) 参加者 6名

②埼玉大学との連携強化 埼玉大学提携講座「情報と職業」

埼玉大学工学部情報システム工学科での提携講座「情報と職業」は今年度で7年目を迎えました。今年度は当協会から6名の講師を派遣し、情報業界に限らず、広く職業とは何かについて講義しました。

講義は金曜日の9・10時限(16:20～17:50)に行われ、講義終了後は担当の池口教授と学生との懇親会が開かれました。

日程	担当講師	テーマ
4月26日	松島 勲 氏(デマンド・アド・コミュニケーションズ)	若者よグローバルな人材を目指せ!
5月10日	深澤 陽平 氏(夢科情報)	ある中小ソフトハウスの事例
5月31日	藤田 勉 氏(ソルパック)	ITベンチャー企業家論
6月14日	岡本 比呂志 氏(中央情報学園理事長)	職業とキャリアを考える
7月 5日	石井 進 氏(AGS)	銀行におけるコンピュータ活用の変遷
7月26日	鈴木 良雄 氏(エレクス)	情報と職業

③eラーニングの活用

- 一般社団法人日本ソフトウェア産業協会と共催 参加企業：4社

(2) 地域情報化推進事業

①「彩の国ビジネスアリーナ2014」

今年で11回目となる「彩の国ビジネスアリーナ2014」が、1月29日(水)、30日(木)さいたまスーパーアリーナ(さいたま市)において埼玉県・公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会・財団法人埼玉県産業振興公社・地元6金融機関の主催にて開催されました。

本イベントは、中小企業の受注確保・技術力向上等を目的とし、広域的な企業ネットワーク形成による取引・技術交流の促進、新たなビジネスチャンス創出の場を提供する展示商談会です。

来場者は二日間で16,570名、567企業・団体が集結し747小間を展示、

「産学連携」として東西24の大学・研究機関も参加致しました。来場者は過去最高を記録するなど、企業間取引における国内最大級の展示商談会となった。

「次世代産業ゾーン」では、招待出展企業として、「次世代自動車」、「ロボット技術」、「エネルギー・環境分野」などの先端企業、埼玉が誇る技術・製品をご展示され、出展者や来場者との交流を図られた。

当協会は公益社団法人として地域活性化連携事業の一環として「彩の国ビジネスアリーナ2014」を位置づけると共に「ITソリューションゾーン」を設営し、30社38小間が出展、特設のプレゼンコーナーでは7社がプレゼンスを行った。

会場内講演会場では当協会主催で「スマホ・タブレットを活用したワークスタイル変革」と題し富士通(株)統合商品戦略本部西山聡一氏による講演を開催70人余の参加を得た。

また、同時開催イベントとして広域商談会・産学連携フェアをはじめ、産学連携促進交流会といった多数のイベントが催され、会場は大いに盛り上がった。

セミナー・講演会・出展アンケート調査については、SAI-PRESS80号(2014年4月発行)に掲載予定。

<彩の国ビジネスアリーナ2014開催事業実績>

開催日時	平成26年1月29日(水) 10:00~18:00 30日(木) 10:00~17:00
開催場所	さいたまスーパーアリーナ(埼玉県さいたま市中央区新都心8番地)
主催	埼玉県、財団法人埼玉県産業振興公社、公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会、株式会社埼玉りそな銀行、株式会社武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫、飯能信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫
共催	公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団、公益財団法人全国中小企業取引振興会、埼玉県信用保証協会、公益財団法人茨城県中小企業振興公社、公益財団法人栃木県産業振興センター、公益財団法人群馬県産業支援機構、公益財団法人千葉県産業振興センター、公益財団法人長野県中小企業振興センター、公益財団法人東京都中小企業振興公社、公益財団法人にいがた産業創造機構
後援	経済産業省関東経済産業局、さいたま市、独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構埼玉職業訓練支援センター、日本貿易振興機構(ジェトロ)関東貿易情報センター、株式会社日本政策金融公庫さいたま支店、一般社団法人情報サービス産業協会、一般社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉経済同友会、一般社団法人埼玉県経営者協会、朝日新聞さいたま総局、埼玉新聞社、産経新聞社さいたま総局、テレビ埼玉、日刊工業新聞社さいたま総局、日本経済新聞社さいたま支局、フジサンケイビジネスアイ関東総局、NHKさいたま放送局、毎日新聞さいたま支局、読売新聞さいたま支局

来場者数	総数 16,570人 (前回 16,487人) 初日 8,394人 (前回 8,823人) 2日目 8,176人 (前回 7,664人)
実施概要	(1)出展者による技術・製品・サービスの展示 出展者が自社製品・加工品を展示し、自らの技術力を積極的にアピールするとともに、来場者との商談や出展者間における情報交換・商談等を実施 ・出展者数 567企業・団体 (前回556企業・団体) ・出展小間数 747小間 (前回783小間) (2)講演会等の実施 最新の技術動向や企業経営に資するテーマの講演会等を実施 ・夢ROBOから新たな未来を切り開く取組 ・パネルディスカッション「中小製造業が日本のものづくりを救う」 ・「10年先の自分」を作る ・スマホタブレットを活用したワークスタイル変革(当協会主催)
同時開催イベント	(1)29・30日 広域商談会 (2)29・30日 産学連携フェア (3)29・30日 第17回埼玉東部工業展 (4)29・30日 第3回全国製造業コマ大戦 (5)29日 埼玉ビジネス懇談会 (6)29日 産学連携促進交流会

② 第18回「彩の国さいたまホームページコンテスト2013」

当協会のイベントとして知名度も向上し、今年度も県内外より広く応募者があり平成26年1月22日多くの来賓を迎えて表彰式が行われ、県知事賞をはじめさいたま市長賞・総務省関東総合通信局長賞・経済産業省関東経済局長賞等が授与されました。

- ・公募期間 : 平成25年9月1日～10月10日
- ・応募総数 : 63作品・参加者96名
- ・最終審査 : 平成25年11月22日
- ・表彰式 : 平成26年1月22日

<ホームページコンテスト2013受賞者>

賞	作品タイトル	氏名	人数	学校名・企業名
埼玉県知事賞/ 富士通賞	新入社員による 新入社員のための ビジネスマナー講座	鈴木 香織	5	蓼科情報(株)
さいたま市長賞	授乳室マップ in さいたま	池澤 陽子	1	自営業
総務省 関東総合通信局長賞	スカイツリーライン 沿線おでかけガイド	松岡 大雅	2	県立越谷総合技術高等学校

賞	作品タイトル	氏名	人数	学校名・企業名
経済産業省 関東経済産業局長賞	越谷市を歩こう！	金子 将大	3	県立越谷総合技術高等学校
厚生労働省 埼玉労働局長賞	ウェブで学ぶ 洋食のマナー	小西 大気	3	県立熊谷工業高等学校
小・中学生の部 最優秀賞	猫図鑑	細川 琴美	1	松伏第二中学校
小・中学生の部 優秀賞	火	寄川 直輝	1	松伏第二中学校
高校・大学 専門学校の部 最優秀賞	スカイツリーライン 沿線おでかけガイド	松岡 大雅	2	県立越谷総合技術高等学校
高校・大学 専門学校の部 優秀賞	やさしい フォトタッチ	和久津 翔平	2	尚美学園大学
一般の部 最優秀賞	やかまし村	原田 豪	1	
一般の部 優秀賞	朱雀のクワガタ 採集記	千輝 賛	1	
シニアの部 最優秀賞	石神井さんぼ	大石 和代	1	
協会会員の部 最優秀賞	加須うどん 作ってみた	小関 士朗	1	(株)フジミック埼玉
協会会員の部 優秀賞	たくのみ	平山 友梨香	4	AGS(株)
麒麟ビール マーケティング賞	草原の風	ブフ バト	1	中央情報専門学校
FM NACK5賞	楽器	山下 翼	1	松伏第二中学校
埼玉新聞社賞	猫図鑑	細川 琴美	1	松伏第二中学校
日刊工業新聞社賞	紹介！富士山	吉岡 良平	5	蓼科情報(株)
サンケイリビング 新聞社賞	水中の危険生物	中村 郁哉	1	松伏第二中学校
大宮アルディージャ賞	積乱雲	前田 修亜	1	松伏第二中学校
浦和レッド ダイヤモンド賞	走るコツ	小野寺 晃一	1	松伏第二中学校

③埼玉県立工業学校プログラムコンテスト大会

本大会は、工業高等学校に学ぶ生徒に創造力を発揮した新鮮な発想でのプログラミングの作成を通じて、次代を担うスペシャリストとしての資質の向上を目的に平成25年11月9日～10日に開催された。その上位入賞者は全国大会に出場する。

当協会は趣旨に賛同し審査委員派遣（田沼専務理事・松島理事）、協賛金など後援団体として支援している。

④「セミナー」「ビジネス交流会」の開催

- ・タイムリーなテーマを選定し、新ビジネス展開・会員相互のビジネス情報の交流を推進する。
- ・商工会議所などの経済団体と連携し、県内企業のIT利活用促進を図る。

＜経営者セミナー＞

NPO法人埼玉ITコーディネータと共催

開催日：平成26年2月7日 場所：さいたま市浦和コミュニティセンター

参加者：50名

このセミナーは毎年度末に当協会とNPO法人埼玉ITコーディネータが共催して開催するもので、本年度で通算6回目になります。毎年、総務省・経済産業省の方をお招きし新年度の情報通信関連施策を説明していただいています。

今回は会員企業・ITコーディネータ50名の参加を得て、総務省山本課長から「平成25年度ICT政策の潮流と情報流通のフィールド実験について」、経産省北原課長から「経済産業省の情施策」についての講演をいただきました。

民間企業からはウーマンエコノミクス総研代表取締役宮本直美様から「ウーマノミクス推進が企業を変える～事例から学ぶ」の講演を頂きました。

⑤「地域連携事業」「ビジネス交流会等」

イ. 埼玉県自治体クラウドセミナー開催

平成25年6月28日埼玉県県民健康センターにおいて埼玉県の後援をえて「第1回さいたま自治体クラウドセミナー」を開催、当協会としてはじめて開催した地方公共団体向けのセミナーであった。

参加者は自治体関係10団体19名、一般法人14社26名・セミナーに併設し、会員企業8社がブースを設けPRを行った。

ロ. 埼玉IT経営ネットワーク会議開催

今年度は、地域IT活用の促進「地産地消」をテーマとして3回の会議を開催し、目的達成のため支援団体から各種のアドバイスを頂いた。

開催日

第1回 平成25年 7月17日 埼玉会館会議室

第2回 平成25年10月23日 大宮ソニックシティ会議室

第3回 平成26年 3月18日 埼玉会館会議室

参加団体は以下のとおり。

総務省 関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課、
経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 情報政策課、
埼玉県 産業労働部 産業支援課、商業・サービス産業支援課、
財団法人埼玉県産業振興公社、埼玉県中小企業団体中央会、
社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、
さいたま市 経済局経済部経済政策課、
一般社団法人情報サービス産業協会

八、ビジネス交流会等の開催

地域連携事業の一環として県西部地区として所沢市、県北部地区として熊谷市で講演会・協会企業の商品の紹介を行った。

平成26年2月10日 所沢市 参加者：16名

2月27日 熊谷市 参加者：39名 合計：55名

⑥「新産業支援機関」に参画

埼玉県・さいたま市の創業・ベンチャー支援事業の支援機関として、IT業界に起業進出したい人に対する相談・技術支援などを行う。

⑦「IT なんでも相談室」の設置

政府・県の施策に協力して、中小事業者のIT投資・情報化等についての相談窓口を事務局に設置。 専用電話 048-844-5512

(3) 調査研究事業

①地方公共団体情報化施策動向に関するアンケート調査

県下の地方公共団体を対象に情報化動向を把握し、地域情報化戦略立案や情報化計画策定等情報提供と地域情報産業の技術力向上をサービス目的として実施。

・平成26年3月 対象 県内63市町村

・調査報告：平成26年7月発行「SAI-PRESS81号」に掲載予定

②県内企業アンケート調査

県内企業を対象に情報化動向及び、情報化の及ぼす労働状況を把握し、これらの情報を提供することにより、地域情報サービス産業の技術力向上を目的として実施。

・「彩の国ビジネスアリーナ2013」出展企業等を調査

・調査報告平成26年7月発行「SAI-PRESS81号」に掲載予定

③プロジェクト管理技術・開発方法・先進ITの研究

・部会月1回 年12回開催

・研修合宿：平成25年11月1～2日 秩父・今宵荘にて参加者9名

・活動報告書作成 SAI-PRESS76・77・80号に掲載

(4) 啓蒙・普及事業

①広報誌「SAI-PRESS」の定期発行：年4回

協会の動向を外部にアピールし、協会の知名度をより一層向上させる為、県内唯一の情報サービス産業公益法人として積極的な情報発信を行う。

・SAI-PRESS76号(4月)77号(7月)78号(10月)79号(1月)発行

②SAI-PRESS速報の発信

協会に送られた「情報・ニュース・案内」などを会員にメールにて適宜送達。

③協会ホームページの運営について

情報サービス産業に関する新たな情報など適宜情報内容の更新を行う。

(5) 産・学・官交流事業

①情報サービス産業振興のために、埼玉県をはじめ経済産業省・総務省等及びJISA・ANIA等関係諸団体・埼玉大学・オープンイノベーションセンターをはじめとする県内大学、産学官交流協議会等への参画、国際交流等を行う。

・「広域関東圏産業クラスター推進ネットワーク」に参画

- ・アジア・オセアニアIT 産業会議 (ASOCIO) -ICT Summit2013
開催日：平成25年9月25日～30日
開催場所：バンコック大会(タイ) 参加者：12名
- ・第35回全情連(ANIA)長野大会
開催日：平成25年10月10日～11日 参加者：14名
- ・東京・神奈川・千葉及び山梨など近隣諸県の情報サービス産業協会との連携を強化し、幹部会・交流会・研修などの行事を推進
＜首都圏情報サービス産業団体協議会・幹部会＞開催(今回幹事：千葉)
3月7日埼玉・東京・神奈川・千葉・山梨の1都4県の情報サービス産業団体で構成する首都圏情報サービス産業団体協議会幹部会が千葉県海浜幕張のマリブイーストで開催されました。当協会から小川会長他4名が出席、東京から河合会長他5名、神奈川から常山会長他5名、千葉から須田会長他3名、山梨から飯室会長他3名、計25名が出席し今後の取組むべき課題等の討議と情報交換・交流を行った。
- ・「埼玉県GIS普及推進研究会」への参画
- ②新年賀詞交歓会：平成26年1月22日 パレスホテル大宮にて開催
諸官庁・諸団体関係者をお招ねきすると共に、会員各社との交流と事業連携を図る目的で開催され143名の方が参加しました。
同日、SAI-PRESS79号に掲載されております第18回「彩の国さいたまホームページコンテスト2013」の表彰式を行いました。

(6) 福利厚生事業

①第20回ボウリング大会

恒例のSISIAボウリング大会が、平成26年2月21日(金)に浦和スプリングレーンにおいて盛大に開催されました。第20回の記念大会として25チーム、100名参加のもと熱戦が繰り広げられ参加会員企業皆様の親睦と交流が図られました。

「団体戦」(会社名/参加者名) 敬称略

優勝 AGS(株)：高田俊光・森口 覚・小熊 光・中村純一
準優勝 蓼科情報(株)：新井祐輝・小林智美・晴山実頼・星 信幸
3位 AGS(株)：海野芳貴・今有希人・高橋一彦・篠原輝基

「個人戦」(選手名/会社名) 敬称略

優勝 高田俊光：AGS(株)
準優勝 佐藤大介：AGSビジネスコンピューター(株)
3位 藤城 勝：AGS(株)

②18回チャリティゴルフコンペ

恒例の第18回チャリティゴルフコンペが参加者36名にて高麗川カントリークラブで開催されました。

当日は寄付金のための罰打ルールが設けられ、罰打ルールが適用されない皆さんを含め多くの善意が寄せられました。なお、チャリティで集まりました寄付金(74,000円)は社会貢献団体に寄贈致します。

「入賞者」(選手名/会社名) 敬称略

優勝 大澤吉勝：蓼科情報(株)
準優勝 原田 薫：三田電子ケイサン(株)
3位 細川芳雄：ミツイワ(株)

(7) 人材確保・共同求人事業

①共同求人事業

- ・学校・企業求人関係懇談会：平成25年10月3日開催
参加者：学校26名 会員29名 計55名
- ・合同就職説明会：平成26年3月6日 大宮ソニックシティにて開催
参加者：421名
- ・研修合宿：平成25年11月14～15日 名古屋にて 参加者7名
- ・会員企業求人案内：平成25年4月「SAI-PRESS76号」に掲載

②インターシップの受け入れ

- ・大学、専門学校、県内高等学校から職場実習を受け入れる。

(8) 埼玉県への情報化推進に関する提言書提出

2012年7月に総務省から公表された「24年度版情報通信白書」特集において、東日本大震災の教訓、人口減少、高齢化の進展等の様々な課題に直面する中、ITが果たす役割が日本再生の道筋であるとの認識が示されました。

また、2012年6月に公表された「埼玉県5か年計画」においては、ITの普及に向けて、真に利用者の視点に立った情報やサービスの提供を一層進めていく方向性が明記され、「第4次埼玉県IT推進アクションプラン」においても、ITを「県民の視点に立った政策実現のためのツール」として「利便性の向上」、「安心・安全の確保」、「行政効率化への推進」に取り組むことが明示されました。

このような情報化推進の動きの中で、県内唯一の公益情報団体として埼玉県におけるITの実態、今後の推進について取り纏め、2013年6月に埼玉県へ提言書を提出致しました。2013年9月埼玉県への情報化推進に関する提言の回答がありました。内容につきましてはSAI-PRESS78号（2013年10月発行）に掲載致しました。

(9) 会員増強運動

今年度の会員増強は目標を達成

目標：5社 実績：5社

- ・学校法人実学舎
埼玉コンピュータ&医療事務専門学校
- ・コーブランド株式会社
- ・株式会社フロッサ
- ・システム開発株式会社 首都圏事業所
- ・学校法人郷学舎
アルスコンピュータ専門学校

3. おわりに

このところ、幾分明るい兆しが見えるものの、まだまだ厳しい経済状況下、会員皆様のご協力・ご支援により「公益社団法人」として2年度目の事業計画を着実に推進出来ましたことに厚く御礼申し上げます。

26年度も引き続き、ご協力ご支援をお願い致しまして平成25年度事業報告を終わります。

以上